

令和5年度 【後期】アンケート結果の考察

【保護者】

- 「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた割合が80%を超えている項目は18、「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた割合の平均は約87%で、学校の取組や児童の様子にある程度満足していただいている。
- ▲ 「お手伝い」については、約40%の方が「できていない」と答えている。お手伝いは児童の生活力向上のためにも有効であり、学級からもお手伝いを奨励する。

【児童】

- 全ての項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた割合が80%を超えているので、ほとんどの児童が充実した学校生活を送れていると考える。
- ▲ 「学校へ行くのは楽しい」は90%を超えているが、「あてはまらない」が1.4%、「あまりあてはまらない」も7.9%いるので、一人一人に寄り添いながら改善を図る。

【教職員】

- 「十分達成」及び「ほぼ達成」を合わせると100%となる項目が13あり、日々児童のために努力していることがうかがえる。
- ▲ 「学力調査を授業に生かす」が約56%、「地域に協力を呼び掛ける」は67%なので、改善を図るよう校内研修等で協議する。

令和5年度 【前期】・【後期】アンケート結果の比較

【保護者】

- 割合の増えた項目が6つあるが、5～10%下がった項目が8つ、10%以上も2つ（特色ある活動、あいさつ）あったので、教育活動を理解していただけるように説明するとともに、協力してもらえよう働き掛けなければならない。
- ▲ 80%を下回っている項目が2つから5つ（特色ある教育活動、あいさつ、外遊び、お手伝い、PTA活動等への参加）に増えているので、生活様式の変化に伴った行動がとれるよう引き続き支援していかなければならない。

【児童】

- 前期は全ての項目で、後期は「外遊び」以外の項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた割合が80%を超えているので、ある程度望ましい学校及び家庭生活が送れていることが分かる。
- ▲ 「ゲームやスマホ」「早寝・早起き・朝ごはん」の項目においては、「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた割合が約5%下がっているので、健全な生活についての意識向上を図るための手立てを考えなければならない。

【教職員】

- 「めざす児童像」「時数確保・計画的指導」「道徳教育」の項目で、「十分達成」「達成」を合わせた割合が、前期は70%を下回っていたが後期は100%になっているので、改善しようとしたことがうかがえる。
- ▲ 「学力調査を授業に生かす」の項目は、「十分達成」「達成」を合わせた割合が前期約42%後期約56%と半分程度なので、前年度の学力調査結果を確認しながら授業に生かせるよう、研修を深める必要がある。